3

パソコンを持ち歩く

本章では、パソコンをバッテリ駆動で使用するときについて説明します。

1 バッテリを使う

バッテリを充電して、または充電したバッテリパックと交換して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
ご購入時は、バッテリは十分に充電されていません。
本製品を初めてお使いになるときは、バッテリを充電してからお使いください。

☞ バッテリの充電 ➪「1 章 4 バッテリの充電」

☞ バッテリパックの交換 ➪「本節 4 バッテリパックを交換する」

1 バッテリ充電量の確認をする

バッテリ駆動で使う場合、バッテリ充電量を確認しておかないと使用中にバッテリの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわてて AC アダプタを接続することになります。
バッテリ充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery ▭ LED で確認する

AC アダプタを接続したとき、Battery ▭ LED が緑色に点灯すれば充電完了です。
オレンジ色に点灯あるいは点滅した場合は、バッテリパックの充電が必要です。

☞ Battery ▭ LED ➪「1 章 4-3 バッテリに関する表示」

アイコンで確認する

Windows 98 ／ 2000 の場合

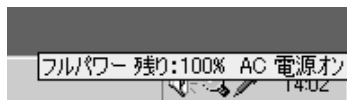
タスクバーの［省電力］アイコン の上にマウスポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

● AC アダプタを接続している場合

フルパワー 残り:100% AC 電源オン

●バッテリ駆動で使用している場合

ノーマル 残り:100% X 時間 XX 分

（表示例）

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。

- タスクバーに表示される［省電力］アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- 「東芝省電力ユーティリティ」の［電源設定］タブの設定内容によっては、タスクバーに［省電力］アイコンが表示されません。表示させたいときは、［電源設定］タブで［タスクバーに省電力モードの状態を表示する］をチェックしてください。

Windows NT の場合

タスクバーの［バッテリインジケータ］アイコン（ または ）の上にマウスポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

● AC アダプタを接続している場合

●バッテリ駆動で使用している場合

（表示例）

また、ダブルクリックすると、バッテリメーターの画面が表示されます。

2 バッテリの使用時間

電源として使われるバッテリの使用時間は、充電量や使用状態により多少差があります。

注 意
・バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）を使いきってしまうと、スタンバイ機能（ 98 2000 ）、サスペンド機能（ NT ）が効かなくなり、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、AC アダプタを接続して充電してください。

バッテリでの使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。
次の時間は目安にしてください。

●充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	動作時間
標準	約2.5時間

※ Windows 98 ／ 2000 ではノーマルモード、Windows NT はミディアムパワーモードです。

（注）BatteryMark4.0 で計測

メモ

· Windows 98 ／ 2000 のスタンバイ機能、Windows NT のサスペンド機能を実行したいときは、放電しきるまでの時間が短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減少します。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

●フル充電した状態で電源を切った場合

パソコン本体の状態	保持時間
スタンバイ（ 98 2000 ） サスペンド（ NT ）	約5日間
電源切断（シャットダウン） 休止状態（ 98 2000 ）	約3週間

バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- ●Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- ●警告音（ビープ音）が鳴る

この場合はただちにACアダプタを接続し、電源を供給してください。

・長時間使用しないで自然に放電しきってしまったときは、警告音でもBattery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

3 時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われます。普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時計用バッテリ
電源ON（Power LEDが点灯）	約10時間以上
電源OFF（Power LEDが消灯）	ほとんど充電しない

・時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

バッテリパックを交換する

⚠ **警 告** ・**バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。**

お願い

・Wake-up on LAN 機能を有効にした状態でスタンバイ機能を実行し、バッテリパックを交換するとデータが失われます。
バッテリパックを交換する際は、Wake-up on LAN 機能を無効にして行なってください。

取りはずし／取り付け

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

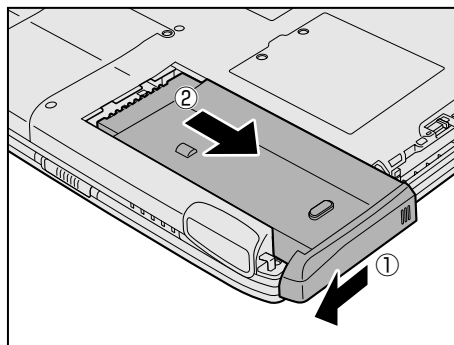
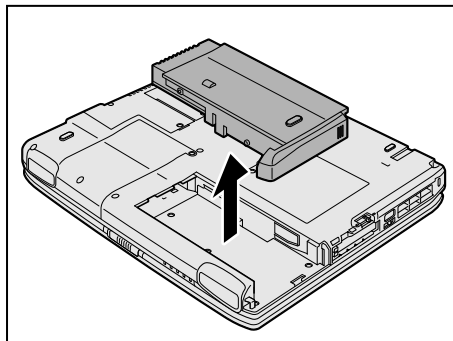
⚠ **注 意** ・**バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイ機能（98 2000）、サスペンド機能（NT）を実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。**

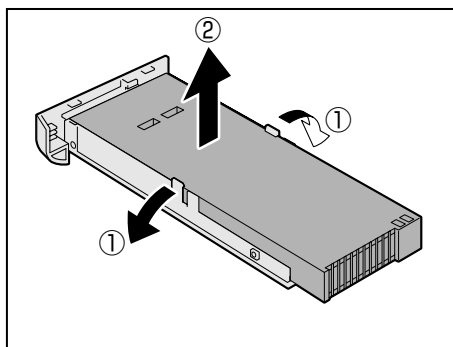
休止状態（98 2000）を使用すると、再起動にかかる時間が短くてすみます。
電源の切りかた、および休止状態を使用する方法については、「2章 3 電源を切る」をご覧ください。

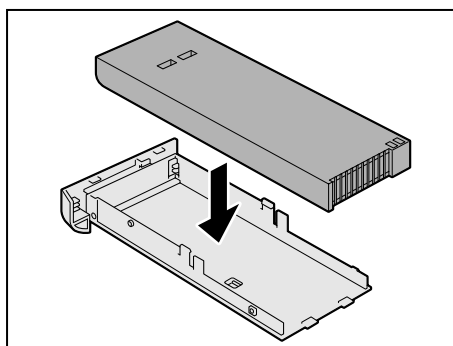
☞ スタンバイ／サスペンド機能、休止状態について ➪「5章 1 消費電力を節約する」

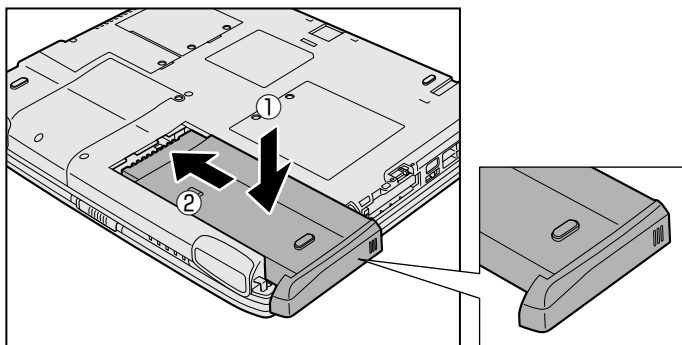
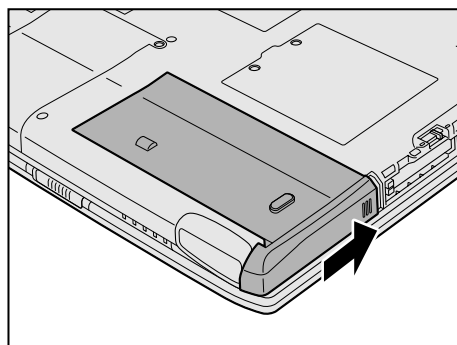
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリラッチを横に押し①、バッテリカバーをスライドさせる②

5 バッテリパックごと、バッテリカバーを取り出す

6 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す

バッテリカバーのツメを左右に広げ①、バッテリパックを取りはずします②。

注 意
・バッテリパックを保管する場合は、ショート防止のために電極に絶縁(ぜつえん)テープをはるなどの対策をこうじてください。そのままの状態で保管すると、破裂や火災のおそれがあります。
・本体側の電極に手でふれないでください。故障の原因になります。

7 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける

8 バッテリラッチが右側にあることを確認し、バッテリパックをコネクタの位置に合わせ①、静かに差し込む②

新しい、あるいは充電したバッテリパックを注意して差し込んでください。

9 バッテリラッチをスライドさせ、バッテリパックを固定する

注 意 ・バッテリパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにバッテリパックがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

2 バッテリを節約する

バッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

●バッテリの充電を完了（フル充電）する
●バッテリ駆動で使用した後は、バッテリを充電しておく
●スタンバイ機能（98 2000）、サスペンド機能（NT）、休止状態（98 2000）を活用し、こまめに電源を切る
スタンバイ／サスペンド機能や休止状態とは、電源を切った後、次に電源を入れると、直前の状態を再現することができる機能です。
☞ スタンバイ／サスペンド機能、休止状態について ➪「5章 1 消費電力を節約する」
●パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
☞ パネルスイッチ機能 ➪「2章 3 電源を切る」
●省電力に設定する
☞ 省電力設定 ➪「5章 1 消費電力を節約する」

4

ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアについて説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

周辺機器の取り付けについて

本章で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。
取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各節を読んでから作業をしてください。

注 意 **・パソコンが動作中に着脱することが認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。**

・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
・湿度やホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
・静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
・本製品を改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して、接続してください。

●パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときには、コネクタの上下や方向を合わせる
●ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締める

・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、この他に作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は、使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をご覧ください。

② マウスの接続

本製品では、次のような市販のマウスを接続して使用することができます。
マウスの種類によって、接続するコネクタが異なります。

- ・PS/2 マウス
- ・シリアルマウス
- ・USB マウス（Windows NT ではサポートしておりません）

☞ USB マウスの接続 ➪「本章 9 USB 対応機器の接続」

注意 ・USB マウス以外のマウスを接続する場合には、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

1 PS/2 マウス

取り付け

1 PS/2 コネクタに、PS/2 マウスのプラグを差し込む

接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

取りはずし

1 パソコン本体に差し込んである PS/2 マウスのプラグを持って抜く

2 シリアルマウス

取り付け

1 COMMS コネクタに、シリアルマウスのプラグを差し込む

接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

取りはずし

1 パソコン本体に差し込んであるシリアルマウスのプラグを持って抜く

シリアルマウスの設定方法

シリアルマウスを初めて接続するときは、次の手順に従って操作してください。

Windows 98 ／ 2000 の場合

パソコン本体の電源を切って、マウスを接続してください。
接続後、パソコン本体の電源を入れると、シリアルマウスが自動的に認識されます。
シリアルマウスとアキュポイントⅡが同時に使えるようになります。

Windows NT の場合

次の操作を行なってください。

1 COMMS コネクタにシリアルマウスを接続する

2 パソコン本体の電源を入れる

3 Adoministrators グループのユーザアカウントでログオンする

4 [ディスクの挿入] 画面で [OK] ボタンをクリックする

5 [コピー元] に「C:¥i386」と入力する

6 [OK] ボタンをクリックする

「再起動しますか？」のメッセージが表示されます。

7 [はい] ボタンをクリックする

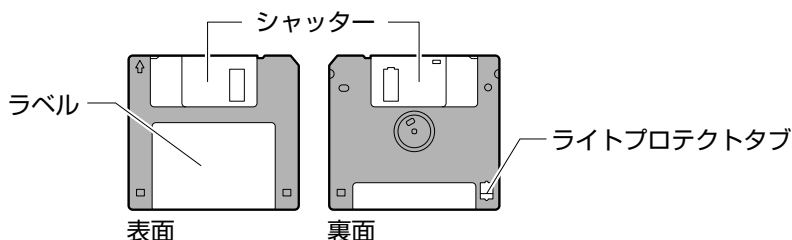
パソコン本体が再起動し、シリアルマウスが使えるようになります。

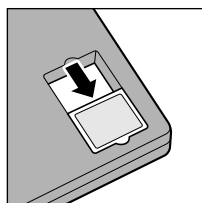
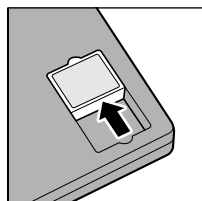
フロッピーディスクドライブ

1 フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

1 枚あたりに保存できる容量は、フォーマットのときに指定します。
フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

ライトプロテクトタブの状態で、次のようになります。

ライトプロテクトタブの状態

書き込み禁止状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
データの読み取りはできます。

書き込み可能状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

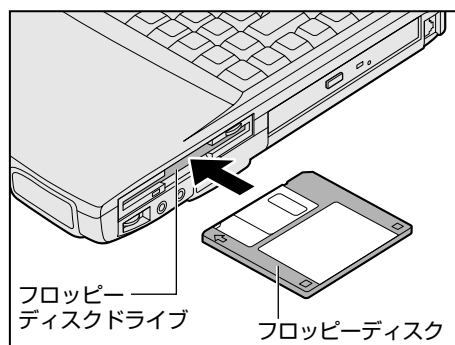
☞ フロッピーディスクの使用について ➩「日常の取り扱い - フロッピーディスク」

② フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

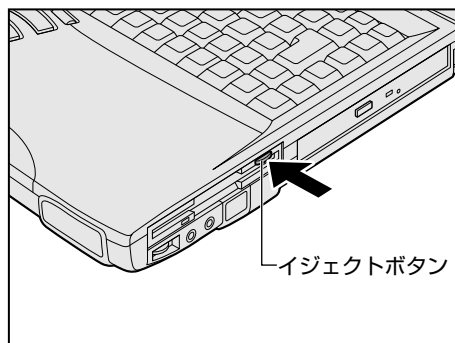
フロッピーディスクのセット

1 フロッピーディスクの隅にかかれている矢印の向きに合わせて挿入する

「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

フロッピーディスクの取り出し

・FDD/CD-ROM LEDが点灯している場合は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れることがあります。

1 イジェクトボタンを押す

フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。
新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクを使うときは、必ずフォーマットを行なってください。
他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。

・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳しくは、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
・2HD フロッピーディスクを 2DD タイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
・Windows 98 の場合、フォーマット形式は、2DD の場合は 720KB、2HD の場合は 1.44MB のみになります。

1 **フォーマットするフロッピーディスクをセットする**

2 **デスクトップ上の［マイ コンピュータ］をダブルクリックする**

3 **［3.5 インチ FD（A:)］をクリックする**

［3.5 インチ FD（A:)］が選択され、アイコンの色が反転します。

4 **［ファイル］メニューの［フォーマット］を選択する**

5 フォーマット方法を選択し、フォーマットを行う

未フォーマットのフロッピーディスクを使用して、フォーマットや起動ディスクの作成をする場合、かなり時間がかかることがあります。

98

① フォーマット方法を選択し、［開始］ボタンをクリックする

未フォーマットまたはこのパソコンで使用できない形式でフォーマットされているフロッピーディスクの場合、クイックフォーマットはできません。

フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、フロッピーディスクの情報が表示されますので、確認してください。

② ［フォーマット結果］の内容を確認し、［閉じる］ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順５から実施します。

フォーマットを終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックします。

2000 NT

① **必要に応じて、［容量］や［フォーマットオプション］を設定し、［開始］ボタンをクリックする**

未フォーマットのフロッピーディスクの場合、クイックフォーマットはできません。

＊画面は Windows 2000 の場合です。

フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されます。

② **［OK］ボタンをクリックする**

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順５から実施します。

フォーマットを終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックします。

CD-ROMドライブ／DVD-ROMドライブ

＊内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルによって異なります。

1 CD／DVD

CD-ROMドライブで使用できるCD

使用できるCDは、次の種類です（読み込みのみ可能です）。

①音楽用CD

8cm、12cmの音楽用CDが聴けます。

②フォトCD

③CD-ROM

使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。

④CDエクストラ

⑤CD-R

⑥CD-RW

DVD-ROMドライブで使用できるCD／DVD

＊DVD-ROMモデルのみ

DVD-ROMドライブで使用できるCD／DVDは、次の種類です（読み込みのみ可能です）。

①上記のCD

②DVD-ROM

③DVD-Video

・DVD-Video再生時は、ACアダプタを接続した状態でご使用になることをおすすめします。また、使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。

☞ CD／DVDの使用について ➩「日常の取り扱い-CD／DVD」

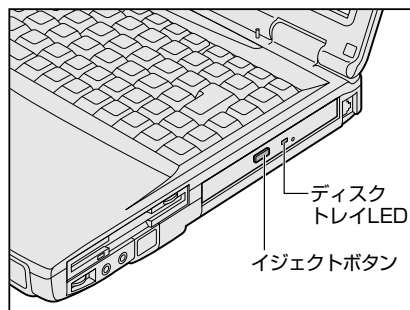
・CD-R、CD-RWは、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

CD ／ DVD のセットと取り出し

＊イジェクトボタンやディスクトレイ LED の位置は、ご購入のモデルによって異なります。

注 意
- **ディスクトレイ内のレンズに触れないでください。CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブの故障の原因になります。**
- **FDD/CD-ROM 💾/💿 LED およびディスクトレイ LED が点灯しているときは、CD ／ DVD が動作しています。このときはイジェクトボタンを押さないでください。CD ／ DVD または CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブの故障の原因となります。**

お願い

・パソコン本体を携帯するときは、CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブに CD ／ DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。

メモ

・CD ／ DVD は、電源が入り、FDD/CD-ROM 💾/💿 LED が消灯しているときにセット／取り出しができます。

・次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。

　・電源を入れた直後

　・リセットした直後

　・ディスクトレイを閉じた直後

これらの場合には、ディスクトレイ LED の点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

・Windows が起動したとき、FDD/CD-ROM 💾/💿 LED が周期的に薄く点灯します。
これは CD ／ DVD の自動挿入を検出しているためで、故障ではありません。

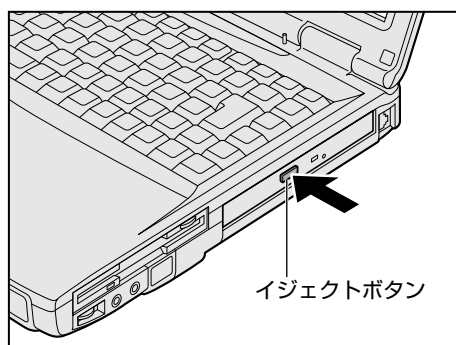
CD ／ DVD のセット

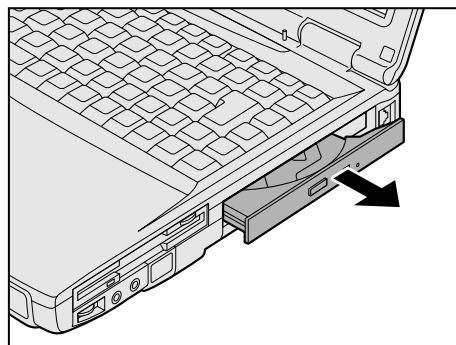
CD ／ DVD をセットするには、次のように行います。

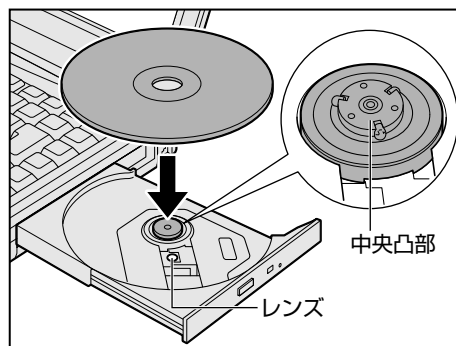
1 パソコン本体の電源を入れる

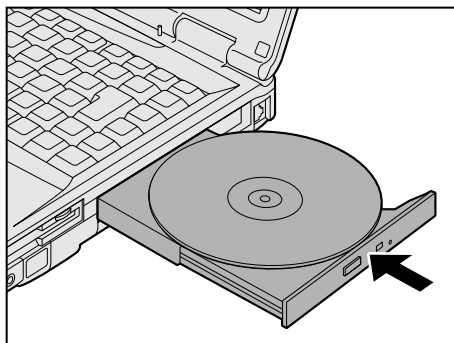
・電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

3 ディスクトレイを引き出す

CD ／ DVD をのせる面がすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD ／ DVD の穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする

カチッと音がして、セットされていることを確認してください。

注意
・ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブの故障の原因になります。
・CD ／ DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
・CD ／ DVD を正しくディスクトレイにセットしないと、CD ／ DVD を傷つけることがあります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

CD ／ DVD の取り出し

注 意 ・FDD/CD-ROM 🖫/💿 LED が点灯しているときは、CD ／ DVD を取り出さないでください。CD ／ DVD のデータや CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブがこわれるおそれがあります。

お願い ・パソコン携帯時は、CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブに入っている CD ／ DVD は取り出してください。

1 パソコン本体の電源を入れる

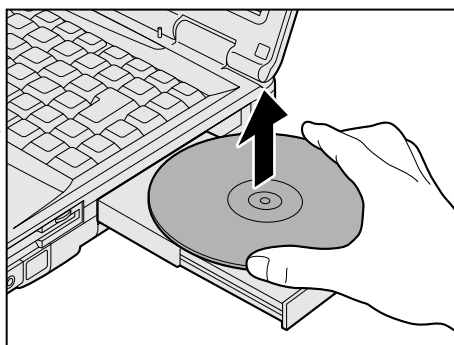
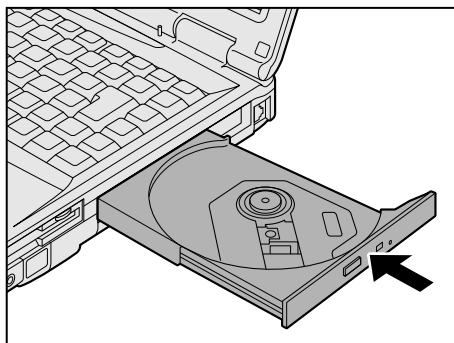
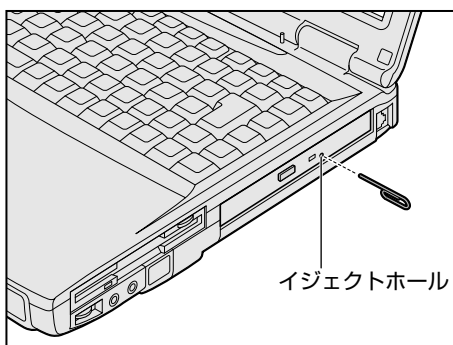
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

CD ／ DVD をのせる面がすべて出るまで、引き出します。

4 CD ／ DVD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

ディスクトレイから CD ／ DVD を取り出します。CD ／ DVD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

・電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。
故障などで電源が入らない場合は、CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブのイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。

注 意 ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。
回転中の CD ／ DVD のデータや CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブがこわれるおそれがあります。

PC カード

本製品には、PC カード（別売り）を取り付けることができます。

注 意 ・ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。電源を入れたまま作業を行うと、PC カードが故障するおそれがあります。

・市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードといっしょに使用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。

・**ホットインサーション**
パソコン本体の電源を入れたままで、PC カードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PC カードによってはこの機能に対応していないものがあります。

・Windows NT をお使いの場合、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」がインストールされていますので、ホットインサーションやプラグアンドプレイを行うことができます。ただし、PC カードによっては、これらの機能に対応していない場合があります。
また、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」をアンインストールした場合やこのユーティリティに対応していない PC カードの場合、ホットインサーションやプラグアンドプレイを行うことはできません。

☞ 詳細について ➪ ［スタート］-［プログラム］-［CardWizard for Windows NT］-［最初に必ずお読みください］

・PC カード接続のハードディスクドライブまたは CD-ROM ドライブの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
  ・通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイアリングに失敗する
  ・サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できる PC カードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1（上側）	TYPE Ⅱ
0（下側）	TYPE Ⅱ/Ⅲ

PC カードの例を次にあげます。

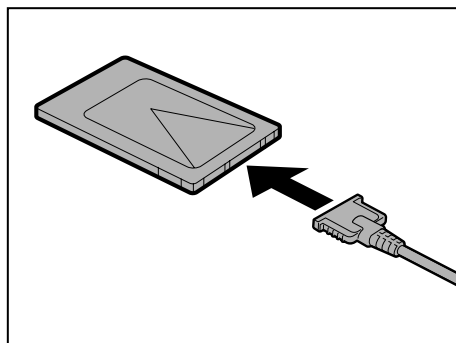
●モデムカード
● SCSI アダプタ
●フラッシュメモリ
● CardBus 対応カード

・スロット 0 にタイプⅢの PC カードを取り付けた場合は、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

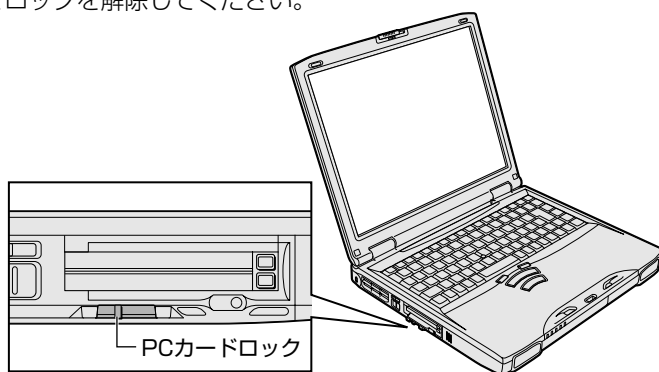
☞『PC カードに付属の説明書』

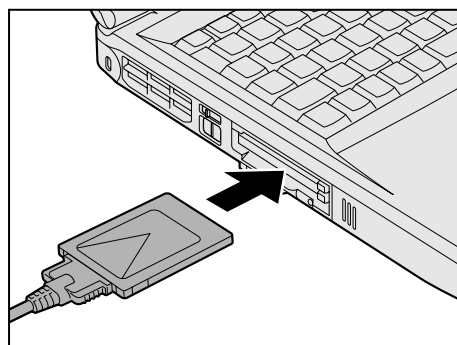
取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける

モデムカードなど、ケーブルを接続することが必要なカードの場合は、この作業を行なってください。

・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

2 PC カードロックを解除する

図のようにPC カードロックが左側にあることを確認してください。右側にある場合は、左にスライドしてロックを解除してください。

3 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する

カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードは使用できません。

Windows NTの場合、PCカードを挿入すると、メッセージが表示されますので、画面の指示に従ってください。

（表示例）

4 PCカードロックを有効（右側）にする

カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

☞ カードの接続および環境の設定方法 ⇨『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

・PCカードの使用終了は必ず行なってください。使用終了せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

・Windows NTの場合、PCカードが「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」に対応していない場合は、必ず電源を切ってからPCカードを取りはずしてください。

・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を終了する

98

①タスクバーにある［PCカード］アイコン（　）をダブルクリックする
②表示される画面で、終了するPCカードを選択し、［停止］ボタンをクリックする
③「安全に取りはずせます」が表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2000

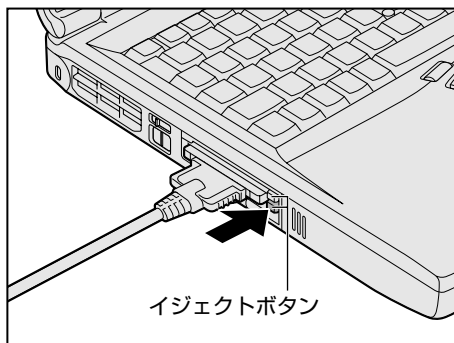
①タスクバーにある［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］アイコン（　）をダブルクリックする
②表示される画面で、終了するPCカードを選択し、［停止］ボタンをクリックする
③表示される画面で、終了するPCカードを確認し、［OK］ボタンをクリックする
④「安全に取り外すことができます」が表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

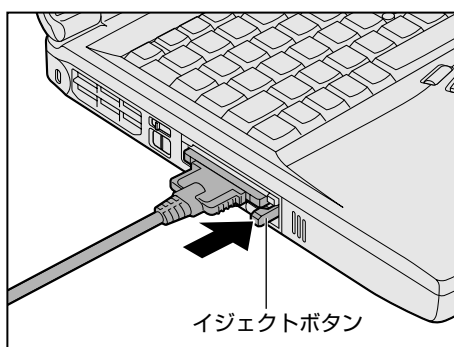
NT

①タスクバーにある［CardWizard］アイコン（　）をダブルクリックする
②表示される画面で、終了するPCカードスロットを選択し、右クリックする
③表示されるメニューから［停止］ボタンをクリックする

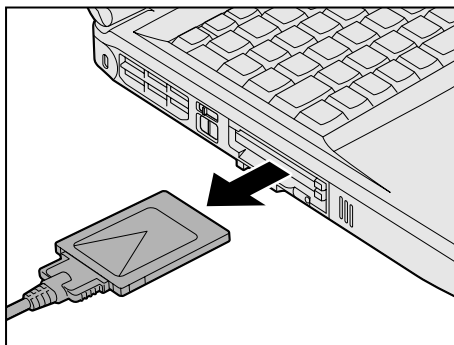
2 PCカードロックを解除（左側）にする

3 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。

4 もう1度イジェクトボタンを押す

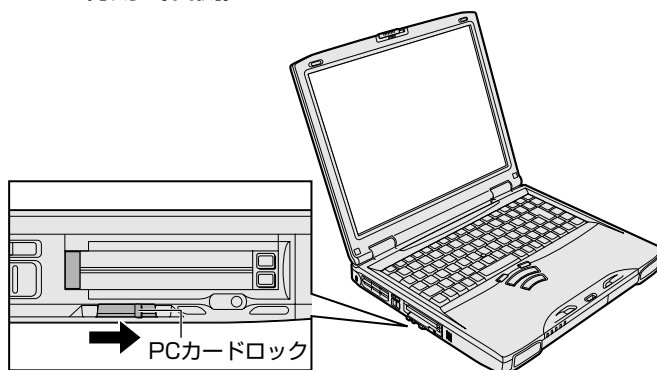
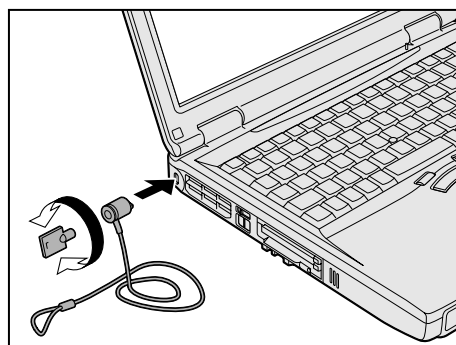
「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

Windows NTの場合、PCカードを取りはずすと、メッセージが表示されますので、画面の指示に従ってください。

（表示例）

5 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

注 意 ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

PCカードをセキュリティロックする

PCカードロックとセキュリティロックを使用することでPCカードが取りはずせないようにすることができます。PCカードを取り付け後、この操作を行なってください。
またこの操作は必要なときのみ行なってください。

1 PCカードロックを有効（右側）にする

2 セキュリティロックをする

・セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

6 増設メモリ

本製品には、64MB または 128MB のメモリが標準装備されています。
本製品には 2 つの増設メモリスロット（スロット A とスロット B）があり、スロット A にはすでに 64MB または 128MB のメモリが取り付けられています。
別売りのメモリをスロット B に取り付けたり、スロット A のメモリを付け替えることにより最大 512MB まで拡張することができます。

・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

・増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・電源を切った直後には、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。増設メモリスロット周辺が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。増設メモリの取り付け／取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
・増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。

・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
・スタンバイ機能（98 2000）、サスペンド機能（NT）、休止状態（98 2000）を設定したまま、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。
スタンバイ／サスペンド機能、または休止状態は無効になります。
また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
・増設メモリは本製品で動作が保証されているものをご使用ください。
それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

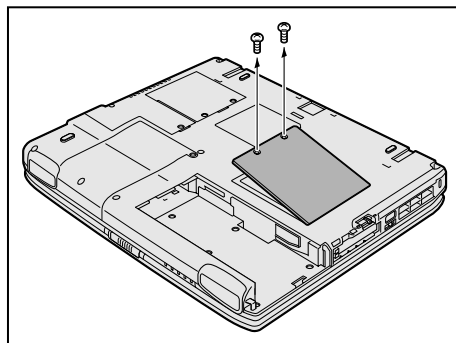
取り付け

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

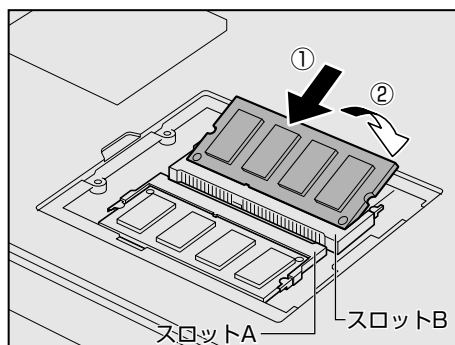
☞ バッテリパックの取りはずしかた ⇨「3 章 1-4 バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ2本をはずし、カバーをはずす

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

警告 ・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意 ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

6 増設メモリカバーをつけて、手順4ではずしたネジ2本をとめる

7 バッテリパックを取り付ける

☞ バッテリパックの取り付けかた ➪「3章 1-4 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいかどうかを次の方法で確認してください。

98 ：PC診断ツール

① ［スタート］-［プログラム］-［東芝ユーティリティ］-［PC診断ツール］をクリックする
② ［基本情報の表示］ボタンをクリックする
③ ［メモリ］の数値を確認する

2000 **NT** ：システムのプロパティ

① ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする
② ［システム］をダブルクリックする
③ ［全般］タブのRAMの数値を確認する

取りはずし

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

⚠ 注 意 ・増設メモリの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。

2 パソコン本体に接続されているＡＣアダプタとケーブル類をはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

☞ バッテリパックの取りはずしかた ⇨「3章 1-4 バッテリパックを交換する」

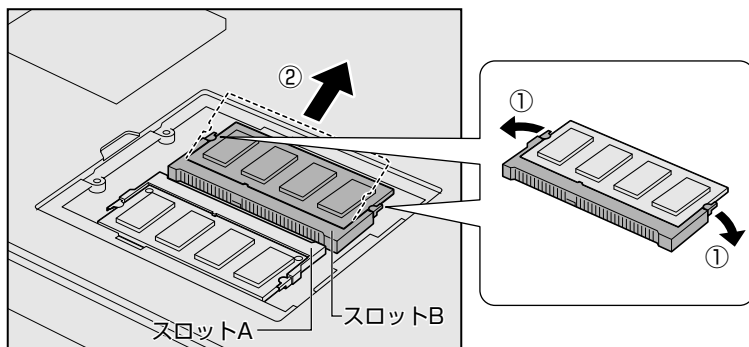
4 増設メモリカバーのネジ２本をはずし、カバーをはずす

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

⚠ 警 告 ・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注 意 ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

増設メモリを斜めに持ち上げて引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順４ではずしたネジ２本をとめる

7 バッテリパックを取り付ける

☞ バッテリパックの取り付けかた ⇨「3章 1-4 バッテリパックを交換する」

7 モデムへの接続

＊モデム内蔵モデルのみ

1 電話回線への接続

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを使って2線式の電話回線に接続します。
本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロベニア、タイ、台湾、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、マルタ、南アフリカ、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、レバノン

（2001年1月現在）

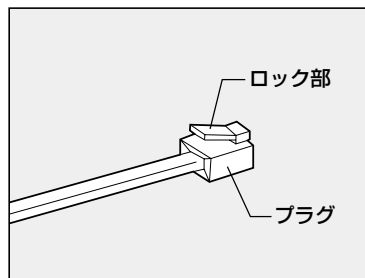
また、公衆回線網の通信規格は各地域により異なりますので、ご使用になる地域に合わせて設定が必要です。ご購入時は「日本」に設定されています。

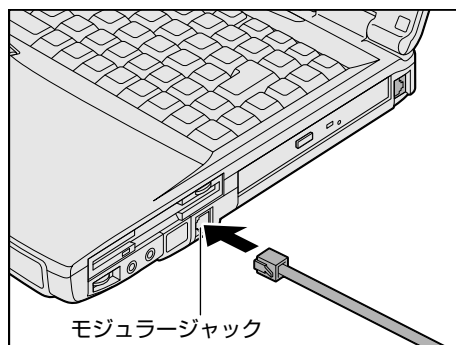
☞ 《オンラインマニュアル》

内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。
通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

・モジュラーケーブルの取り付け／取りはずしは、パソコンの電源を切った状態で行なってください。

取り付け

・モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行なってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

ロック部を手前に向けて差込んでください。

2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

ISDN 回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ（TA）またはダイヤルアップルータのアナログポートへ接続してください。

注 意
- **内蔵モデムは使用できる地域が限定されます。指定以外の地域で内蔵モデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる地域をよくご確認のうえ、ご使用ください。**
- **内蔵モデムは一般電話回線（アナログ回線）に接続して使用してください。デジタル回線（ISDN 回線など）には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機（PBX）へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。**

・モジュラープラグをモジュラージャックに接続するときは、「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。
・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

・PC カード接続のハードディスクドライブまたは CD-ROM ドライブの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 ・通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイアリングに失敗する
 ・サウンド再生時に音飛びが発生する

取りはずし

1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

2 内蔵モデム

内蔵モデムを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。
あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、モデムを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

警 告
- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。**

注 意
- **内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。**
- **電源を切った直後には、内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。**
  内蔵モデムの取り付け／取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
- **内蔵モデムを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。**

取り付け

1. データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
2. パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
3. パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
4. 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ２本をはずし、カバーを取りはずす
5. モデムボードのネジ２本を取りはずす
6. モデムボードをパソコン本体に取り付ける
7. 手順５ではずしたモデムボードのネジ２本をとめる
8. 手順４ではずしたカバーをはめ、ネジ２本でとめる
9. バッテリパックを取り付ける

取りはずし

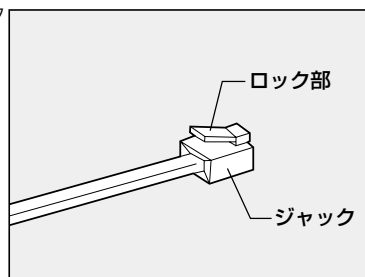
1. データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
2. パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
3. パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
4. 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ２本をはずし、カバーを取りはずす
5. モデムボードのネジ２本を取りはずす
6. モデムボードをパソコン本体から取りはずす
7. 手順５ではずしたモデムボードのネジ２本をとめる
8. 手順４ではずしたカバーをはめ、ネジ２本でとめる
9. バッテリパックを取り付ける

8 LANの接続

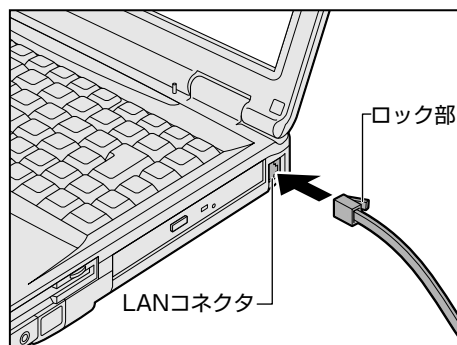
本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応したLANインタフェースが内蔵されています。本製品のLANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet、Ethernetであるかを検出し、自動的に切り替えます。
ここでは、LANケーブルの接続、LANインタフェースをご使用になる際の注意事項を説明します。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）でご使用になるときは、必ずカテゴリ5（CAT5）のケーブルを使用してください。カテゴリ3のケーブルは使用できません。
10BASE-T規格（10Mbps）でご使用になるときは、カテゴリ3または5のケーブルが使用できます。

・LANケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行なってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのジャックを右側面のLANコネクタに差し込む

ロック部をパソコン本体の背面側にむけて、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のジャックを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

❷ Windows 98 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。ご購入時は既定値(Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。

注 意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ネットワーク］をダブルクリックする

3 ［ネットワークの設定］タブで変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。

（表示例）

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ●ネットワーククライアント .... 他のコンピュータに接続する機能です。
- ●プロトコル .... コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- ●アダプタ .... コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- ●サービス .... このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、他のコンピュータから使えるようにします。

4 ［識別情報］タブで、［コンピュータ名］、［ワークグループ］をネットワーク管理者の指示に従い、設定する

（表示例）

⚠ 注 意 ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値（Default、Default_Wg）の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

5 ［アクセスの制御］タブで、変更を行う

（表示例）

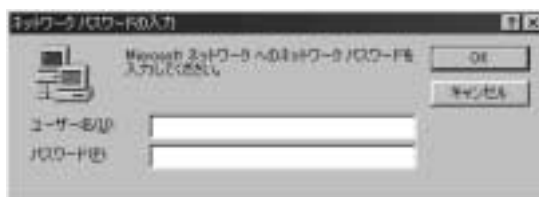
ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

6 設定が終了したら、［OK］ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

③ Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。

> **注 意** ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする

2 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

3 ［ネットワークとダイヤルアップ接続］をダブルクリックする

4 ［ローカルエリア接続］アイコンにマウスポインタを合わせて右クリックする

5 表示されるメニューから［プロパティ］を選択する

6 ネットワーク接続の設定を行う

（表示例）

セットアップ時に設定した構成になっています。
本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

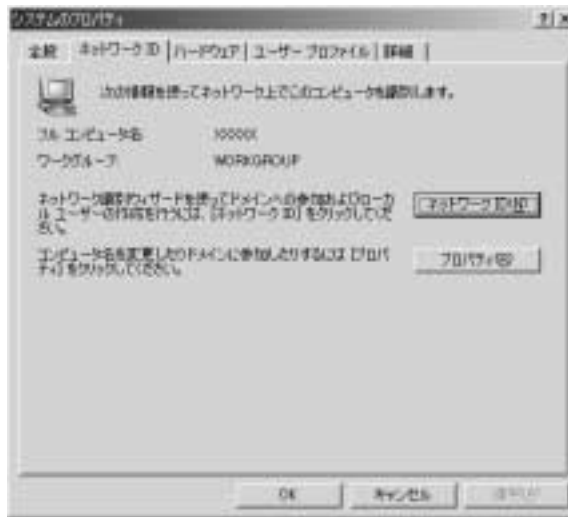
アダプタ	: Intel（R）PRO/100 VE Network Connection
クライアント	: Microsoft ネットワーク用クライアント
サービス	: Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共用
プロトコル	: TCP/IP（自動取得）

ネットワーク上でのコンピュータ識別

1 Administratorsグループのユーザアカウントでログオンする

2 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

3 [システム] をダブルクリックする

4 [ネットワークID] タブを選択する

（表示例）

5 ネットワークIDとプロパティの設定を行う

コンピュータ名、ドメイン／ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。
変更する場合はここで再設定してください。

Windows NT のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。

注 意　・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

1　Administrators グループのユーザアカウントでログオンする

「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵 LAN インタフェースを認識したことを知らせるメッセージが表示されます。
「カード」、「ソケット」など、メッセージが PC カード向けの内容になっていますが、動作には問題ありません。

（表示例）

2　[OK]ボタンをクリックする

3　［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ネットワーク］をダブルクリックする

次の画面が表示されます。

（表示例）

5 ネットワーク管理者の指示に従い、識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う

Windows NTのセットアップ終了後はWindows NT Service Pack6aがインストールされた状態になっています。
また、Windows NTのセットアップ終了後のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ	: Intel（R）PRO/100 VE Network Connection
プロトコル	: NetBEUI
識別	: WORKGROUP
コンピュータ名	: 初期セットアップ時に入力した名前

プロトコルなどを追加する場合「いくつかのWindows NTファイルをコピーする必要があります」という画面が表示される場合があります。
この場合は、画面のファイル検索場所に「C:¥i386」と表示されていることを確認して［OK］ボタンを押してください。

注 意

・TCP/IPプロトコルの追加などネットワークの設定を変更した場合には、一部のファイルが古いバージョンに置き換わることがあります。設定完了後、Windows NT Service Pack6aをインストールしてください。
☞「本項 - Service Pack6aのインストールについて」

起動時のパスワード入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログオンするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。

（表示例）

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

3 ［OK］ボタンをクリックする

「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵LANインタフェースを認識したことを知らせるメッセージが表示されます。

メッセージの内容がPCカード向けになっていますが、動作には問題ありません。

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

Service Pack6aのインストールについて

LANなどのドライバ／プロトコルを追加／変更した場合には、Service Pack6aを再度インストールしなければなりません。
なお、Service Pack6aをインストールすると一部のファイルが置き換えられてしまい、正常に動作しなくなるアプリケーションもあります。
インストールの際は次の手順に従ってください。
詳細については、《オンラインマニュアル》または《リリース情報》をご覧ください。

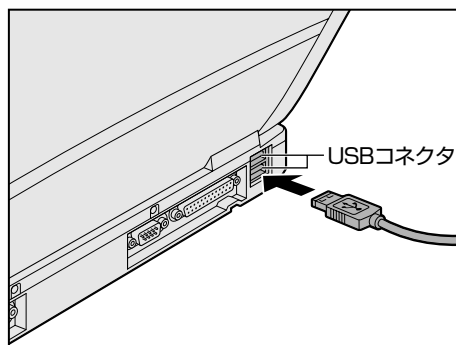
1. **Administratorsグループのユーザアカウントでログオンする**
2. **「東芝パワーマネージメントシステム」をアンインストールする**
   アンインストールが完了した後は、必ず再起動してください。
3. **Administratorsグループのユーザアカウントでログオンする**
4. **デスクトップにある［Service Pack 6a セットアップ］アイコンをダブルクリックする**
   インストールが開始されます。表示されるメッセージに従ってインストールしてください。
   インストールが完了すると、メッセージが表示されます。
5. **［再起動］ボタンをクリックする**
   パソコンを再起動します。
6. **Adminiatratorsグループのユーザアカウントでログオンする**
7. **「東芝パワーマネージメントシステム」を再インストールする**
   インストールが完了した後は、必ず再起動してください。

9 USB 対応機器の接続

本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが 2 つ用意されています。USB 対応機器が対応しているシステムを確認のうえ、お使いください。

＊ Windows NT 4.0 では、USB 対応機器はサポートしていません。

取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

手順 2 が必要ない機器もあります。

- USB 対応の周辺機器を使用するには、システム（OS）、および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイ機能（ 98 2000 ）を実行すると、復帰後に USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、パソコンを再起動してください。

取りはずし

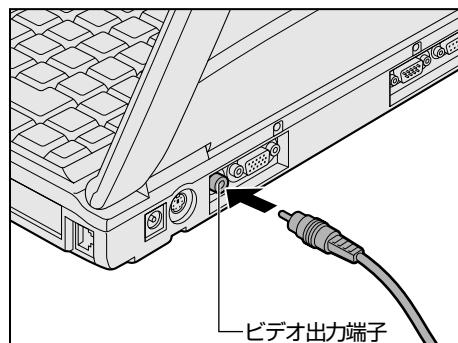
1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルのプラグを抜く

☞ USB 対応機器についての詳細 ➪『USB 対応機器に付属の説明書』

10 テレビへの接続

本製品にはビデオ出力端子が装備されており、画像を出力できます。
市販のビデオ出力ケーブルを使用すると、テレビなどを接続できます。

取り付け

1 **ビデオ出力ケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む**

2 **もう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む**

取りはずし

1 **パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオ出力ケーブルのプラグを抜く**

テレビに表示する

テレビに表示するには次の方法で表示装置を切り替えてください。表示装置を切り替えないと、テレビには表示されません。

方法 1ー 画面のプロパティで設定する

98 2000

①［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする
②［画面］をダブルクリックする
③［設定］タブで［詳細］ボタンをクリックする
④［表示デバイス］タブの［表示デバイス］で次のいずれかを選択する

● LCD/TV ..... 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
［ディファレントリフレッシュレート］をチェックしてから、［LCD/TV］を選択してください。
● TV .... テレビだけに表示

NT

①［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする
②［画面］をダブルクリックする
③［表示デバイス］タブの［表示デバイス］で次のいずれかを選択する

● LCD/TV ..... 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
［ディファレントリフレッシュレート］をチェックしてから、［LCD/TV］を選択してください。
● TV .... テレビだけに表示

・MS-DOS モードを選択している場合、内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示はできません。

方法2ー Fn ＋ F5 キーを使う

Fn キーを押したまま、F5 キーを押すたびに次の順で表示装置が切り替わります。

↓

LCD（内部液晶ディスプレイだけに表示）

↓

LCD／CRT（内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示）

↓

CRT（CRTディスプレイだけに表示）

CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

↓

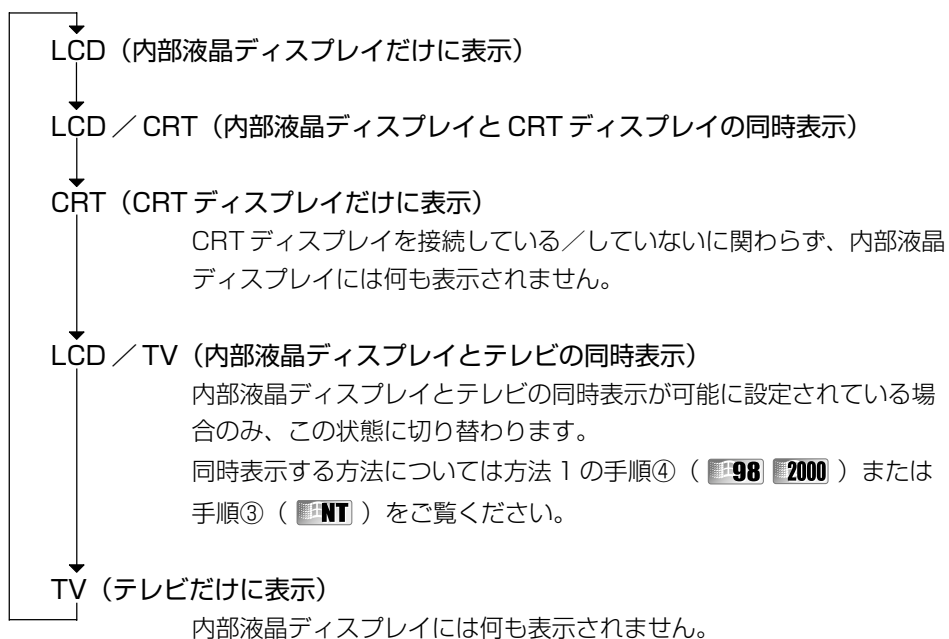
LCD／TV（内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示）

内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示が可能に設定されている場合のみ、この状態に切り替わります。

同時表示する方法については方法1の手順④（ 98 2000 ）または手順③（ NT ）をご覧ください。

↓

TV（テレビだけに表示）

内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

11 プリンタの接続

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続できます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。

☞ USB プリンタの接続 ➪「本章 9 USB 対応機器の接続」

＊ Windows NT4.0 では USB 対応機器はサポートしていません。

取り付け

PRT コネクタに接続する場合の手順です。
プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続します。

1 プリンタケーブルのプラグをパソコン本体の PRT コネクタに差し込む

コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む

プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

プリンタの設定

プリンタドライバのインストール

プリンタを使用するには、ドライバのインストールが必要です。
Windows が標準でドライバを用意していないプリンタの場合、プリンタの製造元が提供するフロッピーディスクや CD-ROM などのインストールディスクが必要です。
詳しくは、『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

1 [スタート] - [設定] - [プリンタ] をクリックする

[プリンタ] 画面が表示されます。

2 [プリンタの追加] をダブルクリックする

ウィザードが起動します。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

テストページを印刷する場合は、印刷する前に、プリンタの電源が入っていること、および印刷の準備ができていることを確認してください。

プリンタポートモードの設定

ご使用になるプリンタにあわせてプリンタポートモードの設定が必要です。

1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

2 [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする

3 [Parallel/Printer] タブで [Parallel Port Mode] を、使用するプリンタに合ったモードに設定する

- ECP（標準値）.................. ECP に対応します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- Standard Bi-directional... 双方向に設定します。一部のプリンタまたは、プリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

12 CRTディスプレイの接続

RGBコネクタにCRTディスプレイを接続できます。
CRTディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にそのCRTディスプレイを認識します。
本製品ではVGAとSVGAのビデオモードをサポートしています。

1 取り付け／取りはずし

取り付け

1 CRTディスプレイに付属のケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

2 CRTディスプレイに付属のケーブルのもう一方のプラグをCRTディスプレイのコネクタに差し込む

取りはずし

1 RGBコネクタに差し込んであるCRTディスプレイに付属のケーブルのプラグを抜く

2 表示方法の切り替え

CRTディスプレイを接続した場合、次の表示方法があります。
・CRTディスプレイだけに表示する （初期設定）
・CRTディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
・内部液晶ディスプレイだけに表示する

・次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
・データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
・通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

・CRTディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRTディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

方法 1ー画面のプロパティで設定する

Windows 98 ／ 2000 の場合

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［画面］をダブルクリックする

3 ［設定］タブで［詳細］ボタンをクリックする

4 ［表示デバイス］タブの［表示デバイス］で次のいずれかを選択する

- LCD .... 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD ／ CRT .... 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示
- CRT .... CRT ディスプレイだけに表示

Windows NT の場合

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［画面］をダブルクリックする

3 ［表示デバイス］タブの［表示デバイス］で次のいずれかを選択する

- LCD .... 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD ／ CRT .... 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示
- CRT .... CRT ディスプレイだけに表示

方法 2ーユーティリティで設定する

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［東芝 HW セットアップ］をダブルクリックする

3 ［Display］タブで［Power On Display］を設定する

- Auto-Selected ..... CRT ディスプレイだけに表示（CRT ディスプレイ接続時）
- Simultaneous ...... 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示

方法 3ー［セットアッププログラム］で設定する

1 「セットアッププログラム」を起動する

☞ 起動方法 ➩「6 章 1-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 ［DISPLAY］で［Power On Display］を設定する

☞「6 章 1-4 設定項目」

方法4ー Fn ＋ F5 キーを使う

Fn キーを押したまま、F5 キーを押すたびに次の順序で切り替わります。

LCD（内部液晶ディスプレイだけに表示）
↓
LCD ／ CRT（内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示）
↓
CRT（CRT ディスプレイだけに表示）

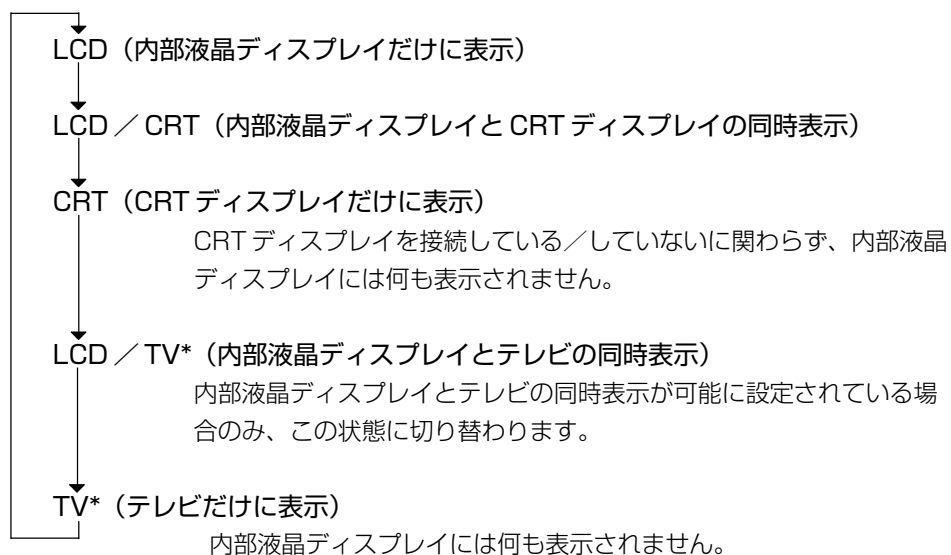
CRT ディスプレイを接続している／していないに関わらず、内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

↓
LCD ／ TV*（内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示）

内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示が可能に設定されている場合のみ、この状態に切り替わります。

↓
TV*（テレビだけに表示）

内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

（TV* から LCD に戻る）

* テレビ接続時について ➪「本章 10 テレビへの接続」

13 外付けキーボードの接続

PS/2 対応のキーボードを PS/2 コネクタに接続して使用することができます。

注 意　・外付けキーボードを接続するときには、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

取り付け

1 PS/2 コネクタに外付けキーボードのプラグを差し込む

接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

取りはずし

1 パソコン本体に差し込んである外付けキーボードのプラグを持って抜く

5

便利な機能

本章では、パソコンを使いやすくするための環境設定用の
ユーティリティについて説明しています。

消費電力を節約する

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。
省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリ消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。
ご使用のシステムの「東芝省電力ユーティリティ」（98 2000）「省電力ユーティリティ」（NT）をご覧ください。

1 東芝省電力ユーティリティ（Windows 98／2000の場合）

起動方法

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［東芝省電力］をダブルクリックする

「東芝省電力ユーティリティ」が起動します。
タスクバーの［省電力］アイコン（ ）をダブルクリックしても起動できます。

（表示例）

[電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。
また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続] [バッテリを使用中] には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になりたい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリを使用中] は AC アダプタに接続している／していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。
これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。
また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。
省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続]（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリを使用中]（バッテリを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

省電力モードの作成

1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする

2 [コピー] ボタンをクリックする

[〜のコピー] という省電力モードができます。

3 その省電力モードの名前を変更する

4 必要に応じて省電力の設定をする

省電力モードの削除

1 削除する省電力モードをクリックする

2 ［削除］ボタンをクリックする

［元に戻す］ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、［OK］ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。

・ご購入時に用意されている４つの省電力モードを削除することはできません。

タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す［省電力］アイコン（ ）がタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。
［省電力］アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、「東芝省電力ユーティリティ」を開くことができます。

タスクバーに Intel(R) SpeedStep(TM) Technology の状態を表示する

＊インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ
ここをチェックすると現在の CPU 周波数（インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium®III プロセッサ）の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。
CPU 周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更することができます。

［休止状態］タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合には、［休止状態をサポートする］をチェックします。

省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

起動方法

1 **［電源設定］タブで利用したい省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする**

次の画面が表示されます。

（表示例）

［全般］タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

［省電力］タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPU の処理速度などを設定します。また、CPU が高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

［動作］タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、［現在の設定をすべてのモードで使用する］ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

スタンバイ機能とは、パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源スイッチを押すと、以前の状態がすばやく再現されます。

・次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
・誤った使いかたをしたとき
・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
・バッテリが消耗したとき
・故障、修理、電池交換のとき
・電源を切った後、すぐに電源を入れたとき
・バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

休止状態

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

・休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
・Windows 98 の場合、ドライブ C を、Windows のシステムツールである「ドライブスペース」や市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、休止状態が使用できなくなります。休止状態を使用する際は、元の状態に復元してください。
・休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。休止状態が無効になり、データが消失するおそれがあります。
・休止状態が有効（［東芝省電力］-［休止状態］タブの［休止状態をサポートする］がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリ充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

電源オフ

Windows を終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める
ここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイや休止状態から復活できないようになります。

［アラーム］タブ

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。
［アラーム］タブは［電源設定］タブで［バッテリを使用中］に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。

❷ 省電力ユーティリティ（Windows NT の場合）

起動方法

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［省電力］をダブルクリックする

「省電力ユーティリティ」が起動します。

（表示例）

［省電力モード］タブ

省電力モード

バッテリ使用時、AC アダプタ使用時それぞれ別々に設定できます。ご購入時は次の省電力モードが用意されています。

フルパワーモード

パソコンを最大パワーで使用するため、省電力制御を行いません。システムの初期状態で AC アダプタを使用するときには、このモードに設定されています。

ハイパワーモード

性能を優先して省電力制御を行います。

ミディアムパワーモード

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。システムの初期状態でバッテリを使用するときには、このモードに設定されています。

ローパワーモード

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ユーザ設定モード

各パワーモードとは別に省電力設定を自由に設定できます。
基本的な４つのモード以外の省電力設定を行うときは、このモードを使用してください。

省電力モードを選択して［詳細設定］ボタンを押すと、選択した省電力モード設定の確認および変更ができます。

［詳細設定］ボタン

このボタンを押すと、選択している各省電力モードに対する細かい省電力設定を行う画面を表示します。
各タブでは次のことが設定できます。

［ディスプレイ］タブ

キーボード、アキュポイントⅡおよびマウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的に消して、消費電力を少なくします。バックライトとディスプレイの両方とも消すので、画面表示に使用する電力を最少にすることができ、もっとも省電力の効果があります。
また、画面の輝度（バックライトの明るさ）を下げることによっても省電力の効果があります。

［HDD］タブ

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクのモータを停止させて、消費電力を少なくします。
ハードディスクがオフの状態で、ハードディスクへのアクセスが発生すると、ハードディスクが使用できるようになるまで、しばらく時間がかかります。
また、さらに省電力効果を向上させ、使い勝手を良くするために監視設定機能があります。

［CPU］タブ

CPU 処理速度を切り替えるなどの、CPU の制御処理を行い、消費電力を減らすことができます。
また、CPU が過熱したときには、CPU 処理速度を自動的に低速にして過熱防止を行います。

［システム］タブ

再起動の方法とスタンバイのタイミングを制御します。
サスペンド／レジュームを選択すると、システム自動停止機能やパネルスイッチ機能を利用することができます。それぞれ、［システム］タブで設定する必要があります。
システム自動停止機能とは、キーボード、アキュポイントⅡ、マウス、ハードディスクなどを一定時間使用していないときに、自動的にサスペンド機能を実行して、システムの電源を切る機能です。
パネルスイッチ機能とは、パソコン本体のディスプレイを閉じたときに、自動的にサスペンド機能を実行してシステムの電源をオフにし、ディスプレイを開けたときには自動的に電源をオンにする機能です。

・既定値は次のようになっています。
　フルパワーモード　：Boot
　それ以外のモード　：サスペンド／レジューム
Boot、サスペンド／レジュームの切り替えは、タスクバー上の［省電力］アイコンでも変更できます。

●サスペンド機能

サスペンド／レジュームを選択すると、サスペンド機能が有効になります。
サスペンド機能とは、パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。
サスペンドの内容は、バッテリの充電量が減少すると、保持できなくなります。

・次のような場合はサスペンド機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
  ・誤った使いかたをしたとき
  ・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  ・バッテリが消耗したとき
  ・故障、修理、電池交換をしたとき
  ・バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
  ・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

・内蔵LANを使用している状態でサスペンド機能を実行する場合、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」をインストールする必要があります。なお、ご購入時の状態ではインストールされています。
・「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」に対応していないPCカードを使用している状態で、サスペンド機能を実行すると、エラーが発生するおそれがあります。
☞ 詳細について ➪《リリース情報》

［その他］タブ

システムスピーカ（システムビープ）の設定やアラームの制御を行います。

・各タブにある［既定値］ボタンを押すと、各項目をご購入時の設定状態に戻します。

タスクバーへ省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると、現在の省電力モードを示す［省電力］アイコン（ ）がタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。［省電力］アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、「省電力ユーティリティ」を開くことができます。

［タイマオン機能］タブ

タイマオン機能の設定を行います。
タイマオン機能とは、指定した時刻、日付に、パソコンを自動起動する機能です。
指定できる日時は、設定当日より1年間です。

5章 便利な機能

東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」は、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

起動方法

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［東芝HW　セットアップ］をダブルクリックする

- ［標準設定］ボタンを押すと、「東芝HWセットアップ」のすべての項目がご購入時の設定状態に戻ります。
- 「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HWセットアップの起動禁止」に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力すると、「東芝HWセットアップ」は起動しません。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
➪「6章 2-2 スーパーバイザパスワード」

詳しくは、『東芝HWセットアップのヘルプ』をご覧ください。

ヘルプの起動方法

1 ［東芝HWセットアップ］を起動し、画面右上の ? をクリックする

マウスポインタが ↖? に変わります。

2 画面上の知りたい場所をクリックする

説明文がポップアップで表示されます。

6

システム構成とパスワードセキュリティ

本章では、パソコン本体のシステム構成の設定や、
パスワードの登録／削除などについて説明します。

1 システム構成の設定

パソコン本体のシステム構成は、セットアッププログラムで設定します。
セットアッププログラムではなく、Windows上のシステムからも変更することができます。

- Windows 98／2000の場合
  デバイスマネージャ、東芝HWセットアップ、東芝省電力ユーティリティで行うことをおすすめします。
- Windows NTの場合
  東芝HWセットアップ、省電力ユーティリティで行うことをおすすめします。

セットアッププログラムとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。

- ご使用のシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- セットアッププログラムで設定した内容は、内蔵バッテリで保持するため、電源を切っても消えません。ただし、内蔵バッテリが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 セットアッププログラムを起動する方法

- 「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HWセットアップの起動禁止」に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力した場合には、セットアッププログラムは起動しません。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
➪「本章 2-2 スーパーバイザパスワード」

Esc キーで起動する

1 Esc キーを押しながら電源を入れる

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

MS-DOS上から起動する（98）

Windows 98のみ使用できます。
Windows 2000／NTの場合、MS-DOS上からは起動できません。

1 ［スタート］-［Windowsの終了］-［MS-DOSモードで再起動する］を選択する

［スタート］-［プログラム］-［MS-DOSプロンプト］からは起動できません。

2 C D Space ¥ T O S S E T と半角英数字で入力し、Enter キーを押す

プロンプトが「C:¥TOSSET>」になります。

3 U S と半角英数字で入力し、Enter キーを押す

英語モードに切り替わります。

4 T S E T U P と半角英数字で入力し、Enter キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

2 セットアッププログラムを終了する方法

変更した内容を反映させて終了します。

1 End キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 Y キーを押す

設定内容が反映され、セットアッププログラムが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

セットアッププログラムを途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。
この場合は変更した内容はまったく反映されません。設定値は変更前の状態のままです。

1 Esc キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 Y キーを押す

セットアッププログラムが終了します。

③ セットアッププログラムの画面

セットアッププログラムには次の２つの画面があります。

（注）画面は標準設定値の表示例です。

＊１　モデルによって異なります。

＊２　インテル® SpeedStep™テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

＊３　CD-ROM ドライブ／DVD-ROM ドライブが内蔵されていない場合、表示されません。

☞ 設定項目の詳細について ➪「本節 4 設定項目」

基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目の選択方法

セットアップブログラム画面中、反転している部分が現在変更できる項目です。
変更する項目に移動するには、↑、↓、←、→キーを使います。

項目の内容の変更方法

SpaceまたはBackSpaceキーを押す
項目の内容が変わります。

画面を切り替える方法

PgDnまたはPgUpキーを押す
次の画面または前の画面に切り替わります。

設定内容を標準値にする方法

Homeキーを押す
次にあげる項目以外は、設定内容が標準設定になります。

・PASSWORD
・Hard Disk Mode
・Write Policy

設定項目

カーソルが移動しない項目は、参照のみで変更できません。
本項では、標準設定値を「標準値」と記述します。

① MEMORY　メモリ容量を表示する

▼ Total

本体に取り付けられているメモリの総容量が表示されます。

② PASSWORD　ユーザパスワードの登録／削除をする

☞ ユーザパスワードの登録／削除の方法 ➪「本章 2-1 ユーザパスワード」

▼ Not Registered

ユーザパスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

▼ Registered

ユーザパスワードが設定されているときに表示されます。

③ BATTERY　バッテリで長く使用するための設定をする

▼ Battery Save Mode

バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

● Full Power（標準値）	● Low Power	● User Settings（設定例）
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed= Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off= 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off= 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright *1 Super-Bright *2	LCD Brightness = Semi-Bright *1 Bright *2	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

（注）System Auto Off（システム自動停止時間）は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。LCD Brightness（LCD 輝度）の表示は次の状態で変わります。
　＊1　バッテリ駆動時
　＊2　AC アダプタ使用時

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・High .... 処理速度を高速に設定する
・Low................................ 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

・Enabled .... 電力消費を低減する
・Disabled .... 電力消費を低減しない

・一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

● Display Auto Off（表示自動停止時間）

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやアキュポイントⅡの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。
画面に表示するには、Shift キーを押すか、マウスを移動させてください。

・Disabled .... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」「03Min.」「05Min.」「10Min.」「15Min.」「20Min.」「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off（HDD自動停止時間）

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。
自動停止時間の設定は「01Min.」「03Min.」「05Min.」「10Min.」「15Min.」「20Min.」「30Min.」から選択します。

・ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● System Auto Off（システム自動停止時間）

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。
「Power-up Mode」が「RESUME」の場合に設定できます。

・Disabled .... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」「20Min.」「30Min.」「40Min.」「50Min.」「60Min.」から選択します。

● LCD Brightness（LCD輝度）

画面の明るさを選択します。

・Semi-Bright .... 低輝度に設定する
・Bright .... 高輝度に設定する
・Super-Bright................ 最高輝度に設定する

● Cooling Method（CPU熱制御方式）

CPUの熱を冷ます方式を選択します。

・Maximum Performance … CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。
・Performance …………… CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。
・Battery Optimized ….. CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

・CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。高熱状態が続く場合は、自動的にレジューム機能を効かせた状態で電源を切り、パソコンを故障から守ります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑ ↓キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

④ PERIPHERAL　HDDや外部装置の設定をする

▼ Pointing Devices（ポインティング装置）

アキュポイントⅡを使用するか、外部PS/2マウスを使用するかを設定します。

・Auto-Selected（標準値） アキュポイントⅡまたはPS/2マウスどちらか1つを使用する
PS/2マウスを接続している場合は、PS/2マウスだけが使用できます。PS/2マウスを接続していない場合は、アキュポイントⅡが使用できます。
・Simultaneous …………. アキュポイントⅡとPS/2マウスを同時に使用する

▼ Ext Keyboard "Fn"

外部キーボードのFnキーの割り当てをします。

・Disabled（標準値）…… Fnキーの代替えキー割り当てをしない
・Left Ctrl+Left Alt
・Right Ctrl+Right Alt
・Left Alt+Left Shift
・Right Alt+Right shift
・Left Alt+CapsLock

（上記5項目）これらのキーをFnキーの代替えキーとして割り当てる

▼ USB Legacy Emulation

USBキーボード／マウスのエミュレーションを設定します。

・Disabled（標準値）…… USBキーボード／マウスのレガシーサポートを行わない
・Enabled ……………………. レガシーサポートを行う
ドライバなしでUSBキーボード／マウスが使用可能になります。

・このUSB Legacy Emulationは、USBマウス、USBキーボードだけに適用されます。USBマウスとUSBキーボードを使用する場合は、パソコンを起動する前にマウス、キーボードを接続しておく必要があります。

▼ Parallel Port Mode

パラレルポートモードの設定をします。

・ECP（標準値）.............. ECP対応に設定する
大半のプリンタでは、ECPに設定します。

・Std.Bi-Direct. .... 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。

▼ Hard Disk Mode

ハードディスクのモードを設定します。
項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行なってください。

・Enhanced IDE(Normal)（標準値）
.... 通常はこちらを選択する

・Standard IDE .... Enhanced IDEに対応していないOSを使用する場合に選択する
この場合、528MBまでが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

⑤ BOOT PRIORITY　ブート優先順位を設定する

▼ Boot Priority

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

・FDD→HDD→CD-ROM→LAN（標準値）

指定のドライブ順に起動する：
・HDD→FDD→CD-ROM→LAN
・FDD→ CD-ROM→LAN→HDD
・HDD→CD-ROM→LAN→FDD
・CD-ROM→LAN→FDD→HDD
・CD-ROM→LAN→HDD→FDD

通常は「FDD→HDD→CD-ROM→LAN」に設定してください。

・電源を入れたときや再起動時に、次に示すキーを押し続けると、設定内容と違うドライブから起動することができます。
F キー･･･フロッピーディスクドライブから起動します。
B キー･･･パソコン本体のハードディスクドライブから起動します。
C キー･･･CD-ROMドライブ／DVD-ROMドライブから起動します。
N キー･･･内蔵LANから起動します。
D キー･･･通常の設定された起動ドライブから起動します。
なお、これらのキーによって設定は変更されません。

▼ Power On Boot Select

電源を入れたときに起動するドライブを選択する機能を使用するかどうかの設定をします。

・Enabled .... 使用可能にする
・Disabled .... 禁止する

「Enabled」に設定した場合は電源を入れると「Press［F2］for the boot device selection menu」というメッセージが表示されます。F2キーを押して表示されるメニューから起動するドライブを選択します。選択するキーは次のようになっています。

F キー･･･フロッピーディスクドライブから起動します。
B キー･･･パソコン本体のハードディスクドライブから起動します。
C キー･･･CD-ROM ドライブ／DVD-ROM ドライブ＊から起動します。
N キー･･･内蔵 LAN から起動します。
D キー･･･通常の設定された起動ドライブから起動します。

＊ CD-ROM ドライブ／DVD-ROM ドライブが内蔵されていない場合、使用できません。
外付け CD-ROM ドライブ（型番：PA2671UJ、または PA2673UJ）を接続すると使用できます。

なお、これらのキーによって設定は変更されません。

・電源を入れたときや再起動時に、キーを押し続けた場合は、設定内容と違うドライブから起動することができます。

⑥ DISPLAY　表示装置の設定をする

▼ Power On Display

表示装置を選択します。

・Auto-Selected（標準値）
.... システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
・Simultaneous .... 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する

・SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

▼ LCD Display Stretch

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

・Enabled .... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
表示モードによっては伸張しない場合があります。
・Disabled（標準値）...... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

▼ TV Type

テレビ受信機を選択します。
・NTSC(JAPAN)(標準値) ... 日本と米国仕様のテレビ受信機
・PAL .... ヨーロッパ仕様のテレビ受信機

⑦ OTHERS

その他の設定をする

▼ Power-up Mode（レジューム機能）

レジューム機能を設定します。
・Boot（標準値）............. レジューム機能を無効にする
・Resume .... レジューム機能を有効にする

▼ CPU Cache（キャッシュ）

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
・Disabled .... キャッシュメモリを使用しない
・Enabled（標準値）....... キャッシュメモリを使用する
「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。
次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。
・Write-back（標準値）.. 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
・Write-through .... 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

▼ Level 2 Cache

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。
「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。
・Enabled（標準値）....... 2次キャッシュを使用する
・Disabled 2次キャッシュを使用しない

▼ Processor Serial Number

＊インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ
プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。
・Disabled（標準値）...... 無効にする
・Enabled .... 有効にする

・「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「プロセッサシリアルナンバー項目の非表示」に設定している場合、パソコンの電源を入れてユーザパスワードを入力したときには表示されません。

▼ Dynamic CPU Frequency Mode

＊インテル® SpeedStep™ テクノロジ対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ

・Dynamically Switchable（標準値）..... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。

・Always High .... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。

・Always Low .... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

▼ Auto Power On（タイマ・オン機能）

・Windows 98／NT を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。
Windows 98 を使用している場合は Windows のタスクスケジューラを使用してください。
Windows NT を使用している場合は「省電力ユーティリティ」を使用してください。

・タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

タイマ・オン機能、リングインジケータ機能、Wake-up on LAN 機能の設定状態を示します。

・Disabled（標準値）...... タイマ・オン機能、リングインジケータ機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない

・Enabled .... タイマ・オン機能、リングインジケータ機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、リングインジケータ機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は Space または BackSpace キーで行います。時と分、月と日の切り替えは ↑ ↓ キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

・Disabled .... 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

・Disabled .... 月日を設定しない

● Ring Indicator

＊モデム内蔵モデルのみ

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
また、この機能はCOMMSコネクタに接続されたモデムで使用できます。

・Enabled .... リングインジケータ機能を使用する
・Disabled .... リングインジケータ機能を使用しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
Wake-up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

・Enabled .... Wake-up on LAN機能を使用する
・Disabled .... Wake-up on LAN機能を使用しない

・パスワードとレジューム機能が設定してある状態で、タイマ・オン機能（Auto Power On）を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動します。
インスタントセキュリティとは、画面表示をオフにし、キー入力（アキュポイントⅡ、マウスを含む）もできない状態のことです。解除するには、パスワードを入力しキーを押します。
・インスタントセキュリティのパスワードは、起動時に入力したパスワードを使用します。

▼ Alarm Volume

アラームの音量を設定します。

・High（標準値）............. 大きな音でアラーム音を鳴らす
・Medium .... HighとLowの中間レベルの音でアラーム音を鳴らす
・Low .... 小さな音でアラーム音を鳴らす
・Off .... アラーム音を鳴らさない

「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウが開きます。

次に「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Low Battery Alarm

バッテリ消耗時の警告音を設定します。

・Enabled（標準値）....... 警告音を鳴らす
・Disabled .... 警告音を鳴らさない

● Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じられたことを知らせる警告音を設定します。

・Enabled（標準値）....... 警告音を鳴らす
・Disabled .... 警告音を鳴らさない

▼ System Beep

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビープ音を鳴らすかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）....... システムビープ音を鳴らす
・Disabled .... システムビープ音を鳴らさない

▼ Panel Power On/Off（パネルスイッチ機能）

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。
- ・Enabled .... パネルスイッチ機能を使用する
- ・Disabled（標準値）...... パネルスイッチ機能を使用しない

⑧ CONFIGURATION

▼ Device Config（デバイス・コンフィグ）

ブート時にBIOSが初期化する装置を指定する
- ・Setup by OS .... OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
  それ以外の装置はOSが初期化します。この場合、「PCカード」内の設定は「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・All Devices（標準値）.. すべての装置を初期化する

・プレインストールされているOSを使用する場合は、「All Devices」を選択します。

⑨ I/O PORTS（I/Oポート）

▼ Serial

シリアルポートの割り当てを設定します。
- ・Not Used...................... シリアルポートを割り当てない
- ・COM1（標準値）
- ・COM2
- ・COM3
- ・COM4

（COM1～COM4）指定のポートを割り当てる

▼ Parallel

パラレルポートの割り当てを設定します。
「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。
「OPTION」ウィンドウの項目について次に説明します。

● DMA

ＤＭＡチャネルを設定します。
「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

⑩ PCI BUS

PCIバスの割り込みレベルを表示する

▼ PCI Bus

PCIバスの割り込みレベルを表示します。
変更はできません。

⑪ PC CARD

PCカードのモードを選択する

▼ Controller Mode

PCカードのモードを選択します。

・Auto-Selected(標準値) ... Windows 98／2000などの、Plug & Playに対応したOSを使用している場合、選択します。

・Card Bus/16-bit .... Windows NT（Ver.4以下）を使用しているとき、または、Auto-Selectedで正常に動作しないCard Bus対応のPCカードを使用する場合に選択します。

・PCIC Compatible .... Windows NT（Ver.4以下）を使用しているとき、または、Auto-SelectedやCardBus/16 - bitで正常に動作しない16 - bit PCカードを使用する場合に選択します。

・Windows NTモデルにインストールされている「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」がサポートしているPCカードを使用する場合は、「Auto-Selected」モードで動作します。

⑫ DRIVES I/O

HDDやCD-ROMドライブの設定

▼ HDD

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。
変更はできません。

▼ CD-ROM

＊CD-ROMドライブ／DVD-ROMドライブが内蔵されていない場合、表示されません。

CD-ROMドライブ／DVD-ROMドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。
変更はできません。

⑬ FLOPPY DISK I/O

▼ Floppy Disk

フロッピーディスクドライブのアドレス、割り込みレベル、チャネルの設定を表示します。
変更はできません。

2 パスワードセキュリティ

本製品では、電源を入れたとき、スタンバイ状態（ 98 2000)／サスペンド状態（ NT ）や休止状態（ 98 2000)やインスタントセキュリティ状態から復帰するときにパスワードの入力を要求するパスワードセキュリティ機能を設定できます。
パスワードには、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードがあります。
通常はユーザパスワードを登録してください。
スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されています。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、セットアッププログラムの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。
ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードに関して、次の表をご覧ください。
本節では、セットアッププログラムからのユーザパスワードの設定方法、キーフロッピーディスク *1 の作成方法、スーパーバイザパスワードプログラムについて説明します。

ユーザパスワード		スーパーバイザパスワード
設定方法	キーフロッピーディスク*1の作成	
・東芝HWセットアップ ・セットアッププログラム ※「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。 ☞「5章 2 東芝HWセットアップ」	セットアッププログラム	スーパーバイザパスワード設定ツール ☞「本節 2 スーパーバイザパスワード」

*1　ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。

・パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。
・パスワードを登録／削除した後、電源を切る前にリセットスイッチを押すと、設定した内容が無効になります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。
よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	-^@［］；：,./　（スペース）
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・単独のキーで入力できない（入力するときにShiftキーなどを使用する）文字 【例】｜（バーチカルライン）、&（アンド）、~（チルダ）など ・¥（エン） ¥ キーや \ キーを押すと¥が入力されます。	

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録

セットアッププログラムからの方法を説明します。
ユーザパスワードの登録をすると、パスワード解除用フロッピーディスク（キーフロッピーディスク）を作成することができます。
キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DD または2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。

1 セットアッププログラムを起動する

☞「本章 1-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、Space または BackSpace キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。
パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。
その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

☞ パスワードの削除方法 ➪「本節 1-ユーザパスワードの削除」

3 ユーザパスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

☞ 入力できる文字 ➪「本節-パスワードとして使用できる文字」

4 Enter キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

6 Enter キーを押す

ユーザパスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、End キーを押す

次のようなメッセージが表示されます。

```
Are you sure ? (Y/N)
Insert password service disk if necessary
```

8 キーフロッピーディスクを作成する

次の「キーフロッピーディスクの作成手順」に従って操作してください。

セットアップの内容が正しければ、Y キーを押します。N キーを押すと、セットアップ画面に戻ります。

キーフロッピーディスクの作成手順

ユーザパスワードを忘れた場合に使用する、キーフロッピーディスクを作成します。

キーフロッピーディスクが必要ない場合は、フロッピーディスクをセットしないで、Y キー を押してください。そのまま終了します。

☞ キーフロッピーディスクの使いかた

➪「本節　1-ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

①フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクをセットする

> **注 意**　・壊されては困るデータの入っているフロッピーディスクは使用しないでください。データが消失します。

② Y キーを押す

次のメッセージが表示されます。

```
Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)
```

③セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は 1 キーを、2DDの場合は 2 キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Remove the password service disk, then press any key.
```

④フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

ユーザパスワードの削除

1 ユーザパスワードの入力画面を表示する

☞ 入力画面の表示方法 ⇨「本節 1-ユーザパスワードの登録」

2 登録してあるユーザパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

3 Enter キーを押す

ユーザパスワードが削除されます。
入力したユーザパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順2からやり直してください。

・入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合には、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行なってください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。
また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。
キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの 2DD または 2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。

・キーフロッピーディスクは、スタンバイ状態（98 2000）、サスペンド状態（NT）、休止状態（98）実行時には使用できません。これらの機能を実行したときに、パスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。
パスワードの解除を保守サービスに依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要です。

①「Password=」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、Enter キーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

```
Set Password Again ? (Y/N)
```

②ユーザパスワードを再設定する場合は、Y キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本節　ユーザパスワードの登録」の手順2以降を行なってください。再設定後、システムが再起動します。

ユーザパスワードを再設定しない場合は、N キーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

```
Remove the Disk,then press any key
```

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードの削除を行なってから、登録を行なってください。

☞「本節 1-ユーザパスワードの削除」、「本節 1-ユーザパスワードの登録」

2 スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。
「スーパーバイザパスワード設定ツール」は、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更をするためのユーティリティです。

起動方法

1. ［スタート］-［ファイル名を指定して実行］をクリックする
2. 「"C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe"」と入力する
3. ［OK］ボタンをクリックする
   詳しくは、「README.HTM」をご覧ください。

「README.HTM」の起動方法

1. ［スタート］-［ファイル名を指定して実行］をクリックする
2. 「"C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM"」と入力する
3. ［OK］ボタンをクリックする

③ パスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると次のようになります。

- 「Password=_ 」と表示される
- 画面が消えた状態になる（レジューム機能とタイマ・オン機能が設定されているとき）

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
ユーザパスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。

☞ キーフロッピーディスクの使いかた
➩「本節 1-ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

・パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

起動時にユーザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態、スタンバイ（98 2000）／サスペンド（NT）機能、休止状態（98 2000）を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

・スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。
スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
➩「本節 2 スーパーバイザパスワード」

起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態やスタンバイ（98 2000）／サスペンド（NT）機能を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはスーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。
休止状態（98 2000）を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

・スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。
スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。

☞「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
➩「本節 2 スーパーバイザパスワード」